



まんごく 万斛広場だより

(第37号)

令和6年8月31日 発行

編集発行

旧鈴木家屋敷跡地活用協議会（会長：岩井正次）
(浜松市積志協働センター 積志地区自治会連合会 内)

事務局

NPO 法人旧鈴木家跡地活用保存会（理事長：村木正彌）
(連絡先 村木正彌 携帯 090-1234-1877)

本号は、前36号（令和6年6月23日発行）以降の万斛広場（万斛庄屋公園）における活動を報告するものです。なお今号よりカラーでお届けすることになりました。

(編集担当：川崎 原稿提供：村木・池田・竹内)

待望の全面芝生の広場が実現しました

日中の気温が35~37℃と言われ残暑厳しい今日この頃です。長らくグラウンドゴルフの愛好者で毎日のように賑わって来た広場ですが（A）、昨年10月より芝生化する工事が進められて来ましたが、ようやく養生が終了し、7月17日に広場が開放されました。（B）

新しい芝生広場でグラウンドゴルフができる日を待っていた愛好者の期待が現実のものとなりました。そこで8月9日、導入を決めていた芝刈り機の運転講習を受け、今後の芝生整備への決意を新たにしました。（C）一方ではグラウンドゴルフのコース設定をどうするか、いろいろ検討されようやく決定しました。そして**9月2日よりグラウンドゴルフができるようになりました。（D）**（想像図です……皆さんに本紙をお届けできる頃には現実の風景が出現していると思います。

(A)



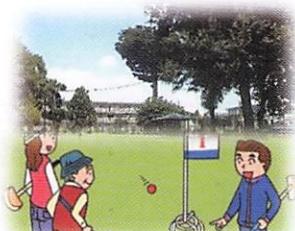
(B)



(C)



(D)



広場の完成に向けて、公園を愛する人々の作業はこれからも続きます

広場が解放されたからといってこれで完成というわけには行きません。広場を囲む樹林に繁茂する草を刈り（E）、雑草を押さえる木材チップを敷き（フワフワ感がとてもいいです）（F）、芝生の間に蔓延る雑草を丹念に処理し（G）、そして各所から集めた草やゴミを始末しました（H）。特に雑草の処理はこれからも必要な作業になります。

(E)



(F)



(G)



(H)



グラウンドゴルフの話をもう少し続けます

広場が使えなかった1年間は、近隣の公共広場や学校の校庭を借用して、途切れることなく続けられました。アウェイでの最後の大会は7月21日でしたが、猛暑の中全員元気で頑張りました。そして新装なった万斛広場での**正式グラウンドゴルフ大会は9月21日に決まりました。**1年振りの再会で

す。「オレ、未知のコースでホールインワンの夢をみたよ」「アタシなんか堂々の優勝よ!」早くも夢物語で舌戦です。思えば庄屋公園におけるグラウンドゴルフは、2014年(平成26年)から始まり、芝生養生のため使えなくなった昨年10月までに延べ4万9千人の人が楽しんでくれました。9月からは万斛広場において新しい記録が作られて行くことになります。



一方、浜松市公園課の主導で新しいガーデン造りが始まりました

今まで地元住民で作った花壇がいくつもありましたが、広場の工事により廃止状態になっていますが、このほど専門家の指導により、園内各所(鈴松庵玄関前、西側遊歩道内側、北川駐車場からの入口付近など)に新しい形のガーデンを造る計画がスタートしました。7月19日に説明会があり、この後2回の検討会を経て、11月に地元の人も一緒になって植え付けが行われる予定です。(花咲く頃の新しい景色が楽しみです)



弓道場が国指定の登録有形文化財に

7月19日、国の文化審議会は、公園内にある旧鈴木家屋敷の弓道場(射場&的場)を国の登録有形文化財(建造物)に指定するよう、文部科学省に答申しました。弓道場は弓道「日置流印西派」第20世嫡伝鈴木家第22代当主鈴木浩平氏によって、昭和6年建てられたものとされています。どちらも柱や太い桁には古材や転用材も使われ、簡素で力強い造りとなっています。(尚、射場は帰一庵と名付けられて会議などに利用されています)



芝生の養生のために広場が閉鎖されていたこともあり、今号でお伝えできる情報は多くありません。そんなことで一挙に時間を戻し、屋敷の寄贈を受けた頃について、リーダー村木正彌氏に当時のことを語ってもらいました。



「2010年…もう14年も経ったか。寄贈を受けた直後の屋敷跡地の様子は今も鮮やかだよ」

「竹林や雑木雑草に覆われた中に現われたのは、朽ち果てんばかりの建物群だった。ここから私たちの活動が始まった。浜松市に手伝って、大変な作業をみんなよくやってくれたなあ……」
(話は続きますが、ここでは、彼が所蔵する資料から一部の写真を並べることにします)



これらの写真を見るにつけ、関係者の大変な努力が偲ばれます。

—以上—